

第二十八回

# 正陽会



・・・ 宿命を生き抜く、それぞれの兄弟の物語 ・・・

能 **蟬丸** 替之型

せみまる

上野朝義  
上野雄三

能 **夜討曾我**

ようちそが

上野雄介  
上野朝彦

狂言 **茶壺**

ちやつぼ

善竹忠一郎

舞囃子 **三輪**

みわ

野村四郎

平成**25**年**10**月**13**日(日)午後**1**時始 於：大槻能楽堂

入場料 前売り 一般 5,000円 学生 2,500円  
当日 一般 6,000円 学生 3,000円

チケットのお取り扱い・お問い合わせ 大槻能楽堂 06-6761-8055 朝陽会館 06-6357-0844

主催 / 正陽会(しょうようかい)・上野朝義 上野雄三

# 第二十八回 正陽会

平成二十五年十月十三日(日) 午後一時開演  
於 大槻能楽堂

## 能 蟬丸 替之型

逆髪 上野雄三  
蟬丸 上野朝義  
清貫 福王茂十郎  
興昇 福王知登  
興昇 喜多雅人  
博雅三位 善竹隆平

笛 赤井啓三  
小鼓 久田舜一郎  
大鼓 上野義雄

地謡 野村井保村戸本林今田  
四完田昌良哲亮  
郎治稔司祐大朗二

後見 大槻文藏  
赤松禎英

## 狂言 茶壺

スッパ 善竹忠一郎  
中国ノ者 善竹忠亮  
目代 上西良介

後見 上吉川徹

## 舞 離子 三輪

野村四郎

笛 赤井啓三  
小鼓 清水皓祐  
大鼓 山本哲也  
太鼓 三島元太郎

地謡 大槻文藏  
小寺一義  
梅若西礼康  
大富武久之

( 休憩 15分 )

## 能 夜討曾我

五郎 上野雄介  
十郎 上野朝彦  
鬼王 上野雄三  
団三郎 上野朝義  
古屋 武富康之  
御所 井戸良祐  
立衆 田口亮二  
立衆 今村哲朗  
大藤内 善竹隆平  
狩場ノ者 善竹隆平

笛 左鴻雅義  
小鼓 清水皓祐  
大鼓 山本哲也

地謡 藤井完治  
赤松禎英  
梅若西礼  
大林本中  
川三浦原  
伊原

後見 野村四郎  
野村昌司

### 蟬丸 (せみまる)

延喜帝の第四皇子蟬丸の宮は盲目の身に生まれ、帝は宮の後生のため清貫に命じ逢坂山に捨てさせます。清貫は悲しみますが、宣旨の通りに蟬丸を剃髪し出家させ、蓑、笠、杖を置いて去ってゆきます。蟬丸は琵琶を抱いて泣き伏し、様子を見にきた博雅の三位は不憫に思い、住まいにと藁屋をしつらえ招じ入れます。

一方、延喜帝の第三の御子逆髪は、髪が逆さまに生え、そのため狂乱となつて辺地をさまよう身となっていました。都を出て逢坂山に訪れた逆髪は、近くの藁屋から聞こえる琵琶の音に足を止め、藁屋の中に弟の蟬丸がいる事に気づき声をかけます。姉弟は再会し互いの不運を嘆き悲しみ、慰め合います。やがて名残を惜しみつつ、二人は涙ながらに別れます。

### 夜討曾我 (ようちそが)

頼朝が諸侍を集めて、富士の裾野で巻狩を催しているの、曾我兄弟もそれに参加します。そしてこの好機に、父の敵工藤祐経を討とうと相談します。討死覚悟の二人は故郷の母のもとへ形見の品を届ける様、従者鬼王・団三郎兄弟に申しつけますが、二人は主君と最期を共にしたいと言いつつ拒みます。十郎らは理を尽くし情に訴えて説得し、二人は泣く泣く故郷へ帰って行きます。

兄弟は首尾よく敵の祐経を討ち果たしますが、警固の軍兵たちに取り囲まれ、兄弟は散り散りとなり、十郎は先に討ち死にします。五郎は一人奮戦しますが、油断した所を組み付かれ、捕えられてしまいます。

### 正陽会 (しょうようかい)

上野朝義、雄三兄弟が主催する会で、毎年1回開催。朝義の長男・朝彦、雄三の長男・雄介も交え、それぞれの研鑽の場としている。



上野朝義  
うえの あさかげ  
シテ方親世流職分  
昭和24年生まれ  
職分故上野朝太郎長男  
親世流25世宗家故親世  
左近、親世流職分野村  
四郎に師事  
日本能楽会会員  
大阪親世会常務理事  
能楽協会大阪支部副支部長  
上野松嶋会定期能主催  
正陽会を主宰



上野雄三  
うえの ゆうさく  
シテ方親世流職分  
昭和31年生まれ  
職分故上野朝太郎三男  
親世流職分野村四郎に  
師事  
日本能楽会会員  
上野松嶋会定期能主催  
正陽会を主宰



大槻能楽堂  
06-6761-8055  
大阪市中心区  
上町A番7号

地下鉄  
谷町四丁目⑩番出口  
谷町六丁目⑦番出口  
市バス  
国立病院大阪医療センター